オーストラリアの日本庭園の歴史と現状に関する研究

A Study on the History and Present of Japanese Gardens in Australia

牧田 直子* 服部 勉* 鈴木 誠*

Naoko MAKITA Tsutomu HATTORI Makoto SUZUKI

Abstract: 432 Japanese gardens are already made outside of Japan, and approximately 35% of 152 gardens surveyed were constructed to commemorate the friendship, and as for the order according to the country, most things are 54 cases in U.S.A. (43%), subsequently it is 16 (70%) in Australia. It is unique that 70% of the Australian Japanese gardens are friendship gardens by the presentation from Japan. But the Japanese garden in Australia could be taken. This study defined the history and present of Japanese gardens in Australia by on-site research for the important 17 gardens, questionnaires to the city councils both Australia and Japan. There are 28 Japanese Gardens in Australia and having been made first embassy by 1961 as the stage of the national interchange. The Japanese garden which the Japanese well-known landscape architect who took in a Japanese traditional style of Japanese garden in each major cities by 1991. After, a local landscape gardening company in Japan cooperated as a member of the sister cities, collaborated of both sister cities. In this way we could find 3 passage of the time. They have important role for cultural exchange between Australia and Japan and be enjoyed or relaxed for the Australian peoples in spite of there is a little support from Japan.

Keywords: Japanese garden, Sister city, Australia, Japanese Gardens outside of Japan

キーワード: 日本庭園, 姉妹都市, オーストラリア, 海外の日本庭園

1. 研究の背景と目的

海外の日本庭園に関する研究は、日本庭園が海外へ伝播され、受容・変遷することに焦点を当てた歴史的考察¹⁾や、現存する海外の日本庭園の現状や管理課題に関する研究報告²⁾など、その数を増してきている³⁾。中でも(社)日本造園学会の『「海外の日本庭園」調査報告書』⁴⁾は、その両者に関した総合的な調査研究報告である。近年ではこの報告書をふまえ、英国⁵⁾、中国⁶⁾など国や地域ごとに歴史的事実や特徴、個々の庭園の造園経緯や現況などが報告され、総括的には庭園の評価の考察⁷⁾や国際交流の象徴となった事例報告⁸⁾などさらに研究が展開されており、本研究もこのような海外の日本庭園の地域研究に位置付けられる。

オーストラリア(以下本文中「豪州」と表記)は『海外の日本庭園』調査報告書⁴⁾では、庭園数23件で国別では5番目であるが、その内自治体贈呈によるものが7割と他に例を見ない特徴を有している。これらの豪州日本庭園については現況からみたその役割を(1)国家間友好象徴としてオーストラリアを代表する日本庭園、(2)庭園空間を舞台に日本文化を伝える本格的な日本庭園、(3)日本の情緒がありレクリエーションの場となる日本庭園、(4)日本をイメージさせ交流をアピールする観賞型日本庭園、と類型化がなされている⁹⁾が、日豪交流を背景とした歴史的な観点からはまとめられていない。そこで本研究では現況に至る日豪交流の歴史的事実と造園の経緯を整理して時代的特徴を明らかにし、さらには現在の交流内容と庭園の活用方法や管理状況をまとめることを目的とした。

2. 研究の対象と方法

本研究では『「海外の日本庭園」調査報告書』に掲載されているオーストラリアの23庭園から、竣工年、設計者、造園事由、施工者など基本情報を確認するため、現地の日本庭園管理者に対し英文によるアンケート調査(2008年7月)、造園した場所や維持管理状況など現況把握のために17庭園の現地調査(2008年8月)を実施し、現地情報とインターネット検索の結果から28の日本

表-1 アンケート、現地調査実施状況

調査内容	期間	調査対象	送付数	回答数
第1回アンケート 庭園の所在地、設計者、施工者、面積、構成要素、経緯、費用など基本情報	2008年7月	豪州日本庭園の管理者	23	13
現地調査 構成要素、管理状態、管理方法など	2008年8月	豪州の日本庭園	—	17
第2回アンケート 基本情報の詳細捕捉、役割、活用、意識など	2009年8月	日本庭園所有の豪州自治体	28	18
		姉妹都市である日本自治体	27	18

庭園¹⁰⁾の存在を確認し、これを研究対象とした。さらに豪州日本庭園がある市町村すべてが日本と姉妹都市関係にあることが判明したため、日豪交流における日本庭園の役割、満足度、問題点などを把握するため、両国市町村の姉妹都市担当者を対象に追加アンケート調査(2009年8月)も実施した(表-1)。

また、文献調査、両国の市区町村や関連団体のホームページの内容を追加し、歴史的事実と庭園の内容を照らし合わせて年表を作成してその特徴を考察した。

3. 豪州における日本庭園の歴史

1952年の日豪平和条約締結後、1953年に首都キャンベラに日本大使館が開設され、1957年の日豪通商協定締結以降、日豪交流が本格的に開始された。現在豪州の姉妹都市締結数では日本が一番多く、親日国となっている¹¹⁾。

このような背景からか28庭園のうち22庭園が姉妹都市関係を起因として造園された公共的な日本庭園となっている。日豪交流の歴史的事実と日本庭園の造園の経緯、設計、施工者の人選や構成要素などから、作成した年表を基に考察した結果、歴史的経緯を3区分することができた。(表-2)

*東京農業大学地域環境科学部造園科学科

(1) 国家交流期 (1961年～1980年)

第2次世界大戦中、日豪は敵国関係にあり日本軍の豪州本土爆撃など傷ましい歴史をもつことから、豪州は少なからず日本に脅威を感じていたという。1960年代中頃まで豪州は白豪主義(一文化、一言語、一民族国家主義)を標榜していたこともあり、日本文化を快く受け入れる土壌ではなかった¹²⁾。1960年から日本は高度経済成長を背景に万博やオリンピックなど国を挙げて日本という国を海外に向けてアピールした時代であるが、豪州も1970年以降、経済成長と「アジアの一員」路線から、各国との交流を進めていた。1976年には日豪友好基本条約を締結するなど日豪交流が始まった。その時代につくられた日本庭園はわずか3事例しかないが、日本文化を熟知していない豪州との交流の舞台として重要な役割を果たした日本大使館(設計:飯田十基)、地勢、大木、露岩をそのまま生かし、色鮮やかな植栽を導入するなど、特徴的な技法と日本人捕虜収容所跡地という場所から平和への祈念を表現したカウラ日本庭園(設計:中島健)は日豪国際交流の先駆けとなり、歴史的にも重要な日本庭園と位置づけられる。当時は国内外で活躍し、著名な造園家として日本から派遣された両人とも、豪州の気候風土を生かし日本庭園の真正性(authenticity)を重んじた設計をしており、共に池を中心とした回遊式庭園を基本に、芝生地、枯山水を配した3つの空間から構成されている。

(2) 姉妹都市記念贈呈期(1981年～1995年)

豪州は、1954年のアメリカ、アイゼンハワー大統領が唱えたPeople-to-People政策の影響を受け、主に欧米諸国との姉妹都市締結を進めていたが、豪州の経済成長期の1970年代後半から日本との姉妹都市数が増加した。これに比例し1981年から1995年の間、豪州には12の日本庭園が造られ、そのうち姉妹都市締結を起因としたものは10事例である。

1982年、ロックハンプトン市と指宿市は姉妹都市締結記念として指宿市に豪州の植物194種を植栽した「オーストラリアの森」が、ロックハンプトン植物園には日本庭園が造られた。これが日豪姉妹都市締結を契機にした初の日本庭園である。この姉妹都市締結には、ロックハンプトン近郊でリゾート開発をしていた指宿でホテルを経営する岩崎興八郎が寄与した。またその縁で指宿市にある「いわさきホテル」の庭園を設計した小形研三がロックハンプトンの日本庭園の設計に携わることとなった。

1983年、名古屋市はシドニー市との姉妹都市締結記念に、灯籠を贈呈し、市中心のハイパーク内に名古屋ガーデンという名称をつけられた区画が設けられた。また世界に先駆けて公園概念を取り入れた公園緑地帯をもつアデレード¹³⁾には、1985年に町の中心を取り囲む公園緑地帯の一角に日本庭園が造られた。姉妹都市である姫路市の造園家の技術指導により池泉回遊式、枯山水、茶室や飛石と日本庭園の風情を楽しめる庭園が造られた。

1988年にはブリスベン万博(国際レジャー博)会場に、日本政府出展の本格的日本庭園が造られた。6ヶ月間に及ぶ博覧会の入場者総数は1850万人(当時の同国の総人口に相当)を数え、日本庭園に象徴される日本文化の紹介は豪州で多大な効果をもたらしたとことが伺える。この日本庭園も小形研三が設計し、会期終了後は、小形の薫陶を受けた榎原八朗が設計指揮をとり、市内のマウントクーサ植物園に移設され、1989年に竣工した。

1989年にはトゥーンバ市の南クイーンズランド大学に日本庭園「寿楽園」が完成した。企画構想は同大学アジア研究者らによるもので、豪州知日家の日本庭園への理解の深化が伺える。設計は当時日本の大学で教鞭をとっていた中根金作に依頼されていたが、高槻市との姉妹都市締結(1991年)は後のことである。

1991年、愛知県とヴィクトリア州という大都市間の姉妹都市締結10周年記念に、世界で3番目に古いという歴史あるメルボルン動物園内に日本庭園が造られた。設計は中根金作の長男・史郎

で池を囲む回遊式庭園は年代を問わず多くの来園者の憩いの場所となっている。

1994年、江戸川区の姉妹都市である Gosford 市のアートギャラリーに知日家豪州造園家の設計により日本庭園がつくられた。豪州人初の設計であるが、平安時代の日本庭園を目指した池泉回遊式と枯山水から構成され、日本文化紹介の場所となっている。

このように1980年代から1990年代中盤は、それまでの経済発展や万博という国家交流を継承し、さらには大都市間を中心とした姉妹都市締結から日本の文化を伝える場として日本庭園が造られている。設計も日本を代表する著名な造園家から姉妹都市交流地域に縁がある造園家へと変わってきてはいるものの、池や流れを配した回遊式庭園が7事例あり、国際交流期のものと同様な傾向が見られる。

(3) 豪州主導・姉妹都市記念事業期 (1996年～2008年)

2008年には豪州と日本との姉妹都市提携数は最多となり、その数は100都市を超えた。姉妹都市間の交流内容は、教育、文化、スポーツ、経済など多岐にわたり、住民の相互理解を深めるための交流事業の充実、経済効果を生む事業、来訪者増を狙うものであったという¹⁴⁾。この時期に造られた日本庭園は13事例で全てが姉妹都市締結や周年記念事業を起因とし、また大都市から地方都市へと展開しはじめていることも大きな特徴と言える。

1997年にはバッセルトン市と埼玉県北葛飾郡の杉戸町との姉妹都市締結記念に日本庭園が造られたが、バッセルトン市が日豪両市民で造ることを希望したため杉戸市の造園家数名が自費で現地に向かいボランティアとして滞在し、バッセルトン市民のボランティアと共に汗を流して施工にあたった。

1997年にはフランクストン市と裾野市の姉妹都市締結15周年記念事業としてフランクストン・裾野友好協会が設立され、施工の中心となって公立高校に日本庭園が造られた。

1993年にデュアリング町(現ブラックウォーター市)と岩手県にある藤沢町が姉妹都市締結をし、デュアリング町の要望で1998年に日本庭園が造られた。両町の企業や個人から日本庭園支援ボランティアを募り設計から施工まで両国協働で造られた。

1998年、バサースト市は福島県の大熊町との姉妹都市10周年記念事業として日本庭園の造園を要望した。双方から224万円ずつ出し合い、両町長も施工に携わり造園を契機に交流を深めた。

1999年にはキャンベラに奈良パークが造られたが、姉妹都市である奈良市は、姉妹都市締結時に灯籠と御影石を贈呈しただけにとどまっていた。

イプスウィッチ市は練馬区と姉妹都市締結7年後の2001年にクイーンズランド州で最古の公園内に練馬園を造った。イプスウィッチ市から練馬区へは資金援助や寄贈ではなく、技術指導が要請され、練馬区の造園会社が現地で指導にあたった。

2002年には、ダボ市に姉妹都市締結10周年を記念した日本庭園が造られた。姉妹都市である美濃加茂市の加茂農林高校の教員と生徒が中心となり、美濃加茂市の造園会社、ダボ市の学生などによって施工された。

2004年に摂津市とバンダバーグ市は姉妹都市締結から5年の構想を経てバンダバーグ植物園に日本庭園が造られた。摂津市は灯籠を寄贈し、摂津市の青少年が記念植樹を実施した。

このように豪州の要望で造園したものは13事例中8事例と半数以上あり、前期までの豪州日本庭園の影響と考えられる。また日本庭園を介した姉妹都市間の交流は両国共に地方レベルにまで展開している。そして、姉妹都市記念として双方の市民の協働作業が行われ、記念事業としての人的交流も盛んになり、豪州側も積極的に造園に係わってきていた。面積500㎡以下の小規模庭園が6事例あることから、姉妹都市の財政規模に見合った造園傾向も見られた。

表-2 日豪交流の歴史と豪州日本庭園

時代 区分	年	主な日豪交流内容	豪州日本庭園の概要							
			No.	名称	姉妹都市(締結年)	面積(m ²)	設計	施工	場所	
	1951	サンフランシスコ条約								
	1953	豪日本大使館開設								
	1956	メルボルンオリンピック								
	1957	日豪通商協定								
国際 交流 期	1961		1	日本庭園(日本大使館)	—	1000	飯田十基	飯田造園	大使館	
	1963	日豪姉妹都市の開始								
	1964	東京オリンピック								
	1969	シドニー日本人学校設立								
	1972		2	日本庭園(カーティン工科大学)	鹿児島県鹿児島 (1974)	1200	中島健	—	学校	
	1973	白豪主義の廃止								
	1974	日豪文化協定								
	1976	日豪交流基金設立								
	1979		3	カウラ日本庭園	新潟県上越市 (2003)※1	50000	中島健	カウラ市	単独	
姉妹 都市 贈 呈 期	1982	姉妹都市協会設立	●4	日本庭園(ロックハンプトン植物園)	鹿児島県指宿市 (1980)	3840	小形研三	㈱小島庭園工務所 ロックハンプトン市	植物園	
	1983		●5	名古屋ガーデン	愛知県名古屋市 (1980)	1600	Norman Weekes	シドニー市	公園	
	1984	豪イギリスから分離								
	1985		●6	姫路ガーデン	兵庫県姫路市 (1982)	2250	熊田造園	熊田造園 アデレード市	公園	
	1987	日本の豪不動産投資進む	●7	日本庭園(タスマニア植物園)	静岡県焼津市 (1977)	5000	原田敢次郎	原田造園㈱ ホバート市	植物園	
	1988	ブリスベン万博	●8	茶庭(キャンベルタウンアートセンター)	埼玉県越谷市 (1984)	450	越谷市の造園家	越谷市の造園家	ギャラリー	
	1989		9	遊翠園	兵庫県神戸市 (1985)	10000	小形研三	京央造園設計事務所	植物園	
			10	寿楽園	大阪府高槻市 (1991)	30000	中根金作	㈱中根庭園研究所 トゥーンバ市	学校	
	1991		●11	日本庭園(メルボルン動物園)	愛知県 (1980)	1800	中根史郎	中根庭園研究所 メルボルン動物園	動物園	
	1992		●12	中央区庭園	東京都中央区 (1991)	868	サザーランド市、 中央区	Hansen Giles Pty Ltd. UCHIYAMA Pty Ltd.	公園	
	1993	日本文化センター開設	●13	カワサキブリッジ(ウーロンゴン植物園 内)	神奈川県川崎市 (1998)	※2	—	ウーロンゴン市	植物園	
	1994	自治体国際協会 シドニー事務所開設	●14	ゴスフォード・江戸川記念庭園	東京都江戸川区 (1988)	4400	Ken Lamb	Imperial Gardens Landscape Pty. Ltd.	ギャラリー	
			●15	日本庭園(マリオン市)	東京都国分寺市 (1993)	2050	国分寺市造園組 合	国分寺市造園組合	施設横	
	1995									
豪主 導・ 姉妹 都市 記 念 事 業 期	1996		16	ローガンエン	大阪府大阪市 (1978)	210	渡辺一、Paul Thompson	安行植木㈱	学校	
	1997		●17	バッセルトン・杉戸 友好の日本庭園	埼玉県杉戸町 (1996)	500	杉戸町の造園家	杉戸町の造園家 バッセルトン市民	施設横	
			●18	フランクストン・裾野 友好庭園	静岡県裾野市 (1982)	138	Harry Lucy、塩 野健一郎	フランクストン・裾野友 好協会	学校	
	1998		●19	日本庭園(ブラックウォーター)	岩手県藤沢町 (1993)	3000	藤沢町、ブラック ウォーター市	藤沢町、ブラックウオー ター市	単独	
			●20	大熊日本庭園	福島県大熊町 (1991)	600	双北造園	双北造園 バサースト市	単独	
	1999		●21	キャンベラ奈良公園	奈良県奈良市 (1993)	14000	ACT Landscape	Woden contractors Pty. Ltd	公園	
			●22	枚方市からの日本庭園	大阪府枚方市 (1995)	15	飛田剛敏	枚方市公園建設課	施設横	
	2000	シドニーオリンピック								
	2001		●23	練馬園	東京都練馬区 (1994)	18000	練馬区の造園家	イブスウィッチ市 練馬区の造園家	公園	
	2002		●24	逍遙園	岐阜県美濃加茂市 (1989)	10637	加茂農林高校	加茂農林高校 フォレストティ高校	公園	
	2004		●25	足立公園	東京都足立区 (1984)	2020	Hames Sharly	ベルモント市	公園	
			●26	日本庭園(ノースバンダバーグ植物園)	大阪府摂津市 (1998)	180	Keith Drinkwater	keith Drinkwater バンダバーグ市	植物園	
	2008		●27	三浦友好庭園	神奈川県三浦市 (1992)	2600	—	—	公園	
	2009		●28	日本庭園(ノースコースト植物園)	長崎県佐世保市 (1988)	※3	—	—	植物園	

●＝姉妹都市を起因として造園された庭園 ※1＝(財)自治体国際化協会の登録はないが両市で平和友好交流意向書を交わしている。※2＝植物園の中にあり、日本庭園面積としては特定されていない

4. 豪州日本庭園の現状

現地調査、アンケート調査から、豪州の日本庭園は日豪交流、姉妹都市締結を背景に造園され、交流が継続している現在も、大きく育ったり枯れてしまった植栽、盗難や倒壊した灯籠などを除き、設計当初の構成を維持し大切にされている。これらの庭園の現状として、活用事例、維持管理の特徴をまとめるとともに、本研究を進めていく中で見られた懸念事項を抽出した。

(1) 日本庭園の活用

豪州日本庭園は、既存の公園内 8 事例、植物園内 6 事例、学校 4 事例、ギャラリー 3 事例、市役所など公共の施設の横 2 事例、

大使館、動物園内が各 1 事例で、多くの人が利用する場所にくくられている。中でもメルボルン動物園は年間約 100 万人の来場があり、レストランに付随する日本庭園は、年齢を問わず多くの豪州市民が観賞できる場所にある。またカウラ日本庭園は郊外にあるにもかかわらず単独で年間来園者が 4 万人を超える。

庭園様式は 28 庭園中回遊式が 23 事例で、枯山水は 9 事例にあった。池や流れのある庭園は 17 事例と半数以上で、四阿は 12 事例にあり、多くの日本庭園が豪州市民の憩いの場となっており、灯籠や朱塗りの橋はガーデンウエディングや観光の格好の写真撮影スポットとなっている。

ブリスベンやゴスフォード、ダボでは茶道、華道の催しが定期的に行われ、キャンベラでは歌舞伎や日本の音楽を演奏、姉妹都市の式典をはじめ市民交流の場として活用されている。大使館の日本庭園は国賓クラスの交流の舞台としてだけでなく豪州の子供たちの遠足の場所にもなっており、カウラ日本庭園は日豪各種メディアに取り上げられている。つまり多くの日本庭園が現在も有効活用され日豪平和と友好交流に大きな影響をもたらしている。

(2) 豪州主導の維持管理

豪州日本庭園にある灯籠はほとんどが日本から贈呈されているが、石や植物などは現地で調達されており、現在その庭園の維持管理は28庭園とも豪州の管理者だけで行われている。

日本大使館は50年、カウラは40年の歳月を経て、エイジングの美を見せているが両方とも専任庭師により維持管理されている。

ブリスベンには、日本側から英文の管理マニュアルが贈呈されているが、その他にも独自の管理マニュアルをもっているところが8事例ある。

一般に海外の日本庭園は、日本との植生や管理方法の違いから、造園した後の日本側のフォローがなく荒廃してしまい、造園当初の姿を残していないものも少なくないが、豪州においてはいまだそのような事例は見受けられない。

その背景としては、姉妹都市や日豪交流の深い結びつきと、豪州の親日感情、設計・施工した造園家たちがそれまでの海外での造園経験を生かし、造園後も足を運び、現地スタッフとの交流、剪定指導、メンテナンスマニュアルの作成など、工夫を凝らしたことがよい状況を保つことができてきた要因と考察された。

(3) 豪州日本庭園の課題

しかし、現地踏査においては維持管理の費用や方法に苦悩しているとの声や、日本側の姉妹都市担当者が来園していないことが豪州庭園管理者から聞かれた。姉妹都市交流初期の盛り上がり、造園当初の交流から年月を経ると、豪州日本庭園については日本側の関わりが希薄になる傾向が感じられた。

このことから日豪両国に日本庭園についての意識のずれがあるのではないかと推測し、2009年に日豪両国の姉妹都市担当者に向けてアンケートを実施した。回答者の属性は、日本は18件すべてが姉妹都市担当で、豪州は18件中市町村の役所で日本庭園に関係する部署の担当者7件、庭園のある学校や植物園の職員が6件、その他が5件であった。内容は造園経緯や費用など基本情報の詳細と、日本庭園が伝えるものは何か、どのような役割を果たしているか、満足度、現状の問題点、要望など両国の差異があるかどうか検証できるよう両国に同じ設問項目を設定した。

アンケートの結果では、様々な交流方法から日本庭園を選んだ理由については「日本の文化芸術として最適である」が両国各6件でもっとも多かったが「長期間携わることで友好も長く続く」は豪州では5件だが日本は2件、また「人的交流があった」は豪州5件に対して日本は0件と日豪の差異が若干生じた。

また両国とも造園したことについては満足しているが、豪州のニーズとして「維持管理費用の補助や寄付を願う」が18件中8件、「運営や経営のアドバイスがほしい」が5件あった。姉妹都市交流で生まれた日本庭園であり、協働するなど交流が盛り上がったと伝えられていたが、維持管理段階においてその交流の継続が希薄であることが伺える。さらに、日本側の回答者を見ると姉妹都市担当者であるが、18件中9件は現地の日本庭園を見たことがないという結果で、造園当初から継続して携わっている担当者がいたのは2件だけであった。市町村合併や担当者の異動により造園当初のことが引き継がれていない事例もあった。豪州のニーズに応えるには日本の姉妹都市担当者や公園管理部門が連携し、豪州日本庭園の現況を把握し、また地元造園家の協力要請や交流手段を絶たないような仕組みを一考する必要がみられた。

5. まとめ

豪州の公共的日本庭園は28庭園すべてが現存し、うち22事例が姉妹都市関係を起因としており18事例が豪州の要望により造園された。萌芽期は著名な造園家による設計で真正性が高く日豪交流の舞台となった。日豪交流の本格的展開期で、民間企業・自治体間の交流を契機とした日本庭園や、万博の日本庭園を通じて日本文化理解のための土壌ができていった。その後は知日家豪州人の日本庭園設置への努力と、姉妹都市締結時あるいは周年行事を契機に地域を代表する造園家が設計・施工する日本庭園が、萌芽期を継承するように、主要都市に展開した。1995年以降には両国の市民ボランティアによる協働作業もみられる。姉妹都市記念の贈呈品としてというよりは人的交流、文化交流を重んじたものが目立ち、管理マニュアルの贈呈や剪定指導なども行われた。

現在は28庭園すべてが豪州側の維持管理で成り立っているが、交流開始期や造園当時のような盛り上がりがなく、経済状況の悪化や市町村合併、財政難、担当者の異動など、日本庭園を舞台にした交流が希薄になりつつあることが懸念される。エイジングの美を見せ歴史的に価値のあるもの、日豪交流の舞台、市民の憩いの場として活用されているのは、日豪の国家交流から始まり姉妹都市交流を契機に造園した経緯とその友好心によるものであろう。

今後、豪州の日本庭園が豪州人の憩いの場として活用され続ける、あるいは観賞価値のある日本庭園として存続してゆくためにも、日本の姉妹都市自治体や地域の造園家、あるいは市民を巻き込んだ支援部隊のような存在、つまり現地において大切にされている豪州日本庭園を支える人的交流が未永く継続されるような仕組みの必要性が考えられる。

補注及び引用文献

- 1) 片平幸 (2010) : 往還する日本庭園の文化史 : 桃山学院大学総合研究所紀要 35(2), 33-54, 鈴木誠 (1998) : 欧米人の日本庭園観 : 日本造園学会誌 62(2), 橋セツ (2009) : 世界漫遊旅行者が造った英国の日本庭園 : 日本造園学会誌 (21) 41-46, Kendal Brown (1999) : Japanese-Style Gardens of the Pacific West Coast : Rizzoli
- 2) 土沼隆雄, 鈴木誠 (1999) : ポートランド市ワシントン・パーク日本庭園の形成過程の特徴に關する考察 : 日本建築学会計画系論文集第 521 号, 195-202, 福原成雄 (2006) : 維持管理に關して - 1(海外の日本庭園づくり <特集> 海外の日本庭園 : 日本造園学会誌 69(3), 220-221
- 3) 2009年3月カリフォルニア州立大学ロングビーチ校にて「日本国外の日本庭園国際会議」が開催され、アメリカの日本庭園を中心的な主題として250名以上の研究者・実務者が参加し、研究成果と情報交換が実施された。
- 4) 日本造園学会「海外の日本庭園」調査刊行委員会編 (2006) : 海外の日本庭園調査報告書 : 日本造園学会
- 5) 大出英子, 鈴木誠 (2009) : 20世紀初頭に造られたイギリスの日本庭園 : 日本造園学会関東支部大会事例・研究報告集, 4-5
- 6) Wenjing LV, Tsutomu HATTORI, Makoto SUZUKI, Ge DENG, Naoko MAKITA (2010) : The Present Situation and Topics of Japanese gardens in the Middle and Eastern Parts of China : 48th IFLA World Congress in Suzhou, Proceeding CD, Session No.1
- 7) 鈴木誠 (2009) : 国際社会における海外の日本庭園の評価・試論的考察 : 日本造園学会関東支部大会事例・研究報告集, 6-7
- 8) Makoto SUZUKI, Naoko MAKITA (2010) : Japanese Gardens Outside of Japan as a symbol of international cultural exchange : ECLAS Conference 2010 in Istanbul, 645-653
- 9) Naoko MAKITA, Tsutomu HATTORI, Makoto SUZUKI, Ge DENG, Wenjing LV (2010) : The Feature and Role of Japanese Gardens in Australia through Cultural Exchanges : The 47th IFLA World Congress Proceedings CD, Session No.1
- 10) ここでいう日本庭園は豪州においてウェブサイトやパンフレット等で「Japanese Garden」と表記、または説明されているもの、あるいは日本の姉妹都市名が付され、灯籠や鳥居、橋などの日本庭園の構成要素が設置されているもので、且つ商業施設、個人所有は除き、一般に公開されているものを対象とした
- 11) 自治体国際化協会 (2008) : オーストラリアの概況および地方行政事情 : 自治体国際化協会シドニー事務所, 121
- 12) 竹田いさみ・森健・永野隆行 (1998) : オーストラリア入門 : 東京大学出版会, 88
- 13) 杉尾邦江 (1992) : オーストラリア、ニュージーランドに於ける公園緑地帯の成立と特質に關する研究 : 日本造園学会造園雑誌 55(5), 91-96
- 14) 自治体国際化協会 (1995) : オーストラリアにおける姉妹都市交流の動向 : 自治体国際化協会 CLAIR REPORT NO.106, 18